

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 「夢をはぐくむ学校」 ○自ら学生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒 |
| 目指す学校像 | 「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒・教職員一人ひとりの自己実現・Well-being が図れる学校」 |
| 重点目標 | 1 非認知能力も含めた真の学力の向上 2 安心・安全な環境の下、心豊かな生徒の育成 3 コミュニティースクールを核とした地域と一体となった教育活動の展開 4 持続可能な新しい学校の在り方を求める教職員の育成 |

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| | | 学 校 自 己 評 価 | | | | 年 度 評 価 | | 学校運営協議会による評価 | |
|----|---|--|---|--|---|---------|---|---------------------|---|
| | | 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 | | 実施日 令和8年2月26日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | <現状> ○令和6年全国学力・学習状況調査では、数学は全国・県平均を少し上回っているが、国語は全国・県平均よりやや下回っている。 ○授業には真面目に取り組む、探究的活動にも意欲的に取り組む。 <課題> ○全国調査の結果から数学は図形に、国語は書くことに課題が見られる。言語活動や表現力に苦手意識がある生徒が多い。 ○家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が向上しない。 | ・学ぶ意味や楽しさの実感。 ・6つの資質能力の向上 (情報活用能力、言語能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション力、学びに向かう力、他者と協働する力) ・学びに向かう力の向上 ・実社会の出来事に関心を持ち学びを活用したか。 | ①朝学習、小テスト、単元末テストの充実。ICTを活用した家庭学習の習慣づけ。よむyomuワークシートの活用。 ②カリキュラム・デザインマップを活用したコラボ授業の推進。 ③ICTを活用した自由進度学習や個別最適な課題を設定した授業を実施。 | ①生徒学校評価「授業でわかった、できた」という実感95%以上。 ②生徒学校評価家庭学習をしている80% ③学びの指標「ICTの活用」3.3以上。 ④保護者学校評価「学校はICTを授業で活用していますか」90%以上。 | ①生徒回答 90.7%。目標到達を目指し、更なる改善が必要である。②保護者回答 60.5%。家庭学習の習慣化のため取組の改善が必要である。③学びの指標「ICTの活用」3.21。目標到達はないがR6市平均を+0.38。④保護者回答 86.5%。各教科の特性に応じながら、効果的な場面において活用している。 | B | 学習習慣の定着と基礎的・基本的な学力の定着は必須と考える。朝の学習時間や学習内容を振り返り、自己調整する時間を作っていききたい。また、既習事項を活用した探究的な学習も非常に重要であり、意図的にそのような場面を各教科の学習の中で設定していききたい。 | | 概ね学校での取組については評価でき、次年度への課題と改善策は妥当であり、その成果に期待をしている。しかし、結果の詳細をみると、生徒と保護者の回答のギャップが大きいものも見受けられ、特に、「学びの質の向上に関する取組」に関する質問項目にその傾向が顕著であるところに課題を感じる。 |
| | | | | | | | | | |
| 2 | <現状> ○令和6年全国学力・学習状況調査、質問紙「自分にはよいところがある」肯定的回答は全国平均を10P以上上回っている。 ○学校評価「学校は楽しいですか」肯定的回答98%。昨年度3年生は100%。 <課題> ○不登校傾向生徒の増加、心の不安を訴える生徒の増加。 | ・自己肯定感や有用感、達成感の向上。 ・キャリア形成につながる活動の充実 ・生徒一人ひとりに寄り添い、大切にす支援がなされたか。 | ①様々な分野から社会人講師を招聘しキャリア発達を促す体験的活動を多く実施し、将来への夢や展望を持たせる。(かたやなぎエンジン等) ②①を通して好奇心、創造性、協調性等、非認知能力の育成を図る。 | ①市学調「将来の夢や目標を持っているか」80%以上。 ②生徒学校評価「仲間のよさを理解し、お互いを認め合っている」98%以上。 | ①生徒回答 70.5%に留まった。キャリア教育充実のため、総合的な学習の時間を中心に、民間企業との連携や「かたやなぎエンジン」の実施などに取り組んだ。②生徒回答 98.6%。小学校時代からの旧知の仲であり厚い信頼関係が醸成されていると捉える。③保護者回答 88.6%。担任の先生を中心に組織的な対応ができた。また外部機関の円滑な連携も実現することができた。④保護者回答 91.0%。個々の生徒に寄り添い落ち着いた学習環境がある程度実現できている。 | B | 3年間を見通したキャリア教育の充実必須であると考え。再度学習構成を見直し改善に努めたい。今年度、学校として生徒に育みたい資質・能力を5つに整理した。今後、更なる成長を目指し、取組の改善と質の向上を目指したい。 | | 生徒回答が70.5%に留まったことは気になるが、さらに次年度への課題と改善策を推進してほしい。未来くるワーク体験でお世話になった事業所に対し、地域のリソースを掛け合わせた新企画を提案する「かたやなぎエンジン」の取組は大変面白いものだった。次年度、よりブラッシュアップして生徒の成長への効果に期待したい。 |
| | | | | | | | | | |
| 3 | <現状> ○学校運営協議会に生徒が参加し、生徒と地域との協働活動が開始されている。 ○令和6年全国学力・学習状況調査、質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」肯定的回答は全国平均を16P上回っている。 <課題> ○コミュニティースクールを核とした生徒、保護者、地域との協働活動のさらなる充実。 ○部活動地域展開の継続。 | ・地域に対し貢献できたか。 ・義務教育学校に向けた小中一貫教育のさらなる推進 ・生徒主体の持続可能な部活動地域展開。 | ①地域行事の意義と生徒との関わりについての啓発活動。 ②小中合同研修会、小中教員派遣、児童生徒間交流のさらなる推進。 ③地域ボランティア報告会や振り返りを共有する機会の設定。 | ①学校評価「ボランティア活動に参加したことがありますか」90%以上。 ②市学調「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか」85%以上。 | ①生徒回答 80.4%。1年生の意識が若干弱く活動の意義などの周知活動が不十分であったことを感じる。②生徒回答 84.5%。社会科のフィールドワークや地域を良くする方法を考える学習など地域教材を活用した学習に積極的に取り組むことができた。 | A | 学校地域連携コーディネーターと連携し、ボランティア活動の周知と参加への呼び掛けを行い、さらに多くの生徒が地域に関わろうとする態度を醸成したい。また、社会科や総合的な学習の時間における地域連携は継続していききたい。 | | 社会科のフィールドワークや地域を良くする方法を考える学習等の現状を見る機会があり、取組や発表の様子から成長を感じる。また、今年度も生徒によるボランティア参加では、非常に多くの活躍をしてくれたと捉えている。学校規模の縮小は地域にとっても最大の課題と捉えているので連携して解決にあたりたい。 |
| | | | | | | | | | |
| 4 | <現状> ○校務DXにより、ペーパーレス化や校務の効率化が進み、備品等の廃棄なども進めている。 ○体育館にエアコンが設置され、気温上昇による運動制限がなくなり快適な運動環境が整った。 <課題> ○トイレの臭い、雨天時の渡り廊下の滑り、雨漏りなど、校舎全体の整備が必要である。 | ・校務のDX化の進捗状況。 ・印刷関係消耗品類の削減。 ・課題箇所の整備状況の向上。 | ①文科省の定める校務DX化の実例にできる限り近づける。 ②備品台帳の整理と不要物品の廃棄と再利用も含めた検討。 ③適切な予算執行と保護者負担の軽減。 | ①保護者学校評価「学校は清掃が行き届いていますか」95%以上。 ②紙代、印刷関係消耗品の3%削減 ③保護者からの教材費等の徴収金を3%削減をめざす。 | ①保護者評価 93.2%。生徒の清掃活動のみならず教職員による環境整備がなされている。②Teamsのチャット機能を活用することにより、A3紙購入数13%減、A4紙購入数25%減となった。③全学年の教材費を前年度と比較すると平均で5.7%減。ただし、旅行積立はバス代金高騰による14.4%の増。 | A | 校内環境の整備は今後も継続して取り組みたい。Teamsのチャット機能活用、タブレットPCの教育利用、スクリーンによる通知配信など継続していききたい。物価高騰、燃料費高騰もあり保護者負担を減らす難しさがあるがICT活用による教材費の減少によって対応していききたい。 | | 教育環境の整備については評価でき、今後の継続的な取組を望みたい。また、遅れているトイレの改修をはじめ、学校の環境整備については、さいたま市教育委員会に継続的に要望しつつ、地域住民にでも協力や支援が出来る事に関しては、実行していききたいと考える。 |
| | | | | | | | | | |
| 5 | <現状> ○働き方改革への理解は進んできた。また、研修の奨励により、授業方法について新しい発想の下での工夫や改善に向けて共通認識は形成されつつある。 <課題> ○生徒主体の指導観、評価観への転換。教えるからコーチング基本のファシリテーターへ。 ○2年後の研究発表に向けた校内研修の一層の充実が必要。 | ・新しい教育情報の収集に努め、授業改善に取り組んでいるか。 ・業務のより一層の効率化と削減が図られているか。 | ①全国的な研究会や講演等へのオンラインも含め積極的な参加。最新の教育情報を収集し、自己研鑽するための時間の確保。 | ①学びの指標における主体的・探究的学び共に3.3以上。 ②一人1回以上の校内授業公開と全教科授業研究会の実施。 ③誌上も含めた研究中間発表会の実施。 | ①主体的3.40、探究的3.42。市内平均から+0.16、+0.21。②全ての教員の1回以上授業公開を実施。③Teamsを活用し市教育研究の進捗状況を共有した。④市内唯一の優秀教職員組織として表彰された。 | A | 令和8年度、学校課題研究の発表となる。これまでの取組を整理し、他校の範となるよう全力で励みたい。また、地域連携が大きな力となるため、連携を継続していききたい。 | | 教育活動における様々な場面において、多様なデジタルツールを効果的に活用していることは大変評価している。また、教職員のキャリア形成に関する取組は重要であり、妥当な状況と評価できる。学校課題研究の推進により、他校の範となる成果に期待している。 |
| | | | | | | | | | |

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組